

手話通訳の利用について

話の内容を正確に聞き取り、正確に通訳するには手話通訳者に高度な集中力とより専門的な知識が求められます。そのような通訳を、舞台上で衆目のなか立ったまま長時間行う場合、手話通訳者には身体的・精神的に大きな負担がかかります。このため、通訳を正確に実施するためには、音響や照明等、手話通訳者が通訳を行う環境にご配慮いただくことが必要になります。

つきましては、主催者様におかれましては、下記のとおり手話通訳者の通訳環境の整備について、ご協力いただきますようよろしくお願い致します。

<手話通訳者の人数>

正確な通訳を行い、また手話通訳者の過度の疲労を避けるために、手話通訳者を複数派遣することがあります。講演会等の場合、2～3人の手話通訳者が15～20分毎に交代しながら通訳する方法が一般的ですが、通訳内容や時間によって手話通訳者の人数が変わってきますのでご了承ください。

【参考】(平成15年5月22日「市町村障害者社会参加促進事業の実施について」厚生労働省部長通知)「一人の手話通訳者が連続して通訳する時間は原則として1時間以内とすること。なお、講演等の場合は30分以内とすること」

<手話通訳者の立つ位置>

聴覚障がい者は手話通訳者の手話を見て話を読み取ります。手話通訳者の立つ位置は、客席の聴覚障がい者から見やすい位置を設定してください。聴覚障がい者の人数が少なく特定されている場合には、客席前方に「聴覚障がい者席」を設け、手話通訳者は舞台上ではなく、聴覚障がい者に対面して位置し、通訳を行うのが効果的です。

<音響について>

通訳をするためには、手話通訳者が話し手の音声を聞き取れることが必要です。手話通訳者が立つ位置で、音声が明瞭に聞き取れるかどうか確認してください。客席用のスピーカーでは聞き取りづらい場合は、手話通訳者用のスピーカーを設置する等、ご配慮下さい。

<照明について>

客席の聴覚障がい者が手話通訳者の手話を見るためには、適度な明るさが必要です。ビデオ上映や資料投影用の機材(OHP、パワーポイントによるプレゼンテーション等)を使用するため場内が暗くなる場合でも、手話通訳者用のスポットライトを用意する等、手話通訳者が立つ位置には適度な明るさが確保されるようご配慮ください。

<資料について>

専門用語に対応する手話表現の確認等、正確に通訳を実施するために、手話通訳者の事前準備(学習)は大変重要となります。通訳内容に関する資料(行事の台本、進行表、会議・研修のレジュメ等)をご準備いただき、手話通訳者派遣事務所に事前にご提供いただきますようご協力下さい。

- ※ 手話通訳者の立つ位置や音響等については、当日手話通訳者同席の上、ご確認をお願いします。
- ※ ご不明な点がございましたら、戸田市手話通訳者派遣事務所にお問合せください。

< 配置例 >

① 講堂・舞台の場合

